

みさかえの園だより

第20号 2017年8月
発行所
社会福祉法人 聖家族会
発行責任者 西村和子
編集 法人事務局
☎859-0167長崎県諫早市
小長井町遠竹2747-6
☎0957-34-4520
FAX 0957-34-4521
[年2回(8月/1月)発行]

中山和子名誉理事長に感謝

みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家

施設長 福田 雅文

原爆孤児との出会いから「聖母の騎士修道女会」の歴史が始まった。中山先生は女子医専を卒業後、当時は不治の病と恐れられていた肺結核にかかり、カトリックのシスターが運営する医療施設に入院することになる。このときに読んだカトリックの修道女で、聖テレジアと呼ばれる若い女性の自叙伝に深く感動を覚えた。さらに「カトリックの公教要理」



などを読み、初めて神と出会い、キリストとの出会いを体験することに。人間の生きる目的、歩むべき道、死後の世界のことを教えて頂く。「我は道なり、真理なり、生命なり」といわれたキリストの言葉の一つひとつを堅く信じ、心は初めて本当の深い平和に満たされて、洗礼を受けられた。聖テレジアがカトリックのシスターだったので、私も病気が回復したら、そして、神のみ旨なら、修道会に入ろうと考えはじめた。昭和20年8月9日、原子爆弾が長崎に投下された。被爆地帯はまさに地獄の様相を呈していた。辛うじて生き残った人々のなかに、家もろとも親、兄弟、親戚など一切を失って天涯孤独の身になった原爆孤児が多数出ました。当時、島根に疎開して

いた中山先生は9月に長崎に戻り、本河内の聖母の騎士修道院にお祈りに行った。修道院には原爆孤児が暮らしており、中山先生との初めての出会いとなった。その後、神戸、大阪、東京の戦災孤児も加わり、200名近くの施設になり、聖母の騎士園と名づけられた。

この修道院は、キリスト教宣教の精神に燃えて、ポーランドから日本の長崎の地に上陸したアウシュビッツの聖者と仰がれている聖マキシミリアノ・マリア・コルベ神父が設立したコンベンツアル聖フランシスコ会の修道院でした。1917年10月神学生であった23歳のコルベ神父は、けがれなき聖母への信頼と愛に満たされた司祭と神学生7人がローマのフランシスコ会修道院の一室で「けがれなき聖母の騎士信心会」を静かに誕生させた。その後世界に広めるために長崎を訪れて修道院をつくり、コルベ神父が帰国後はコルベ神父の愛弟子であったミエチスラオ・M・ミロハナ神父がその意志をつぎ、聖母の騎士園の院長をとめていた。

戦後の混乱のなかで長崎医大の内科医として勤務していた中山先生は日曜日ごとボランティアとして聖母の騎士園を訪ね、孤児たちの診察を重ねているうちに、肉親の愛情に飢えている子どもたちに、医師としてのみでなく、親代わりになって徹底的に愛情を注ぐことを決意された。このとき、この子どもたちのお世

話をする協力奉仕者に若い娘たちがおり、コルベ神父の意志を受けたミロハナ神父は修道女会の創立を考えられていた。この話を聞いた中山先生はすぐに聖堂に入り、顕示されているご聖体の前で伝えようとするご聖体のイエス様から「そこがあなたが入るべき修道会です」という心にひびく声を聞いたのです。このとき初めてイエス様の内心の声を聞き、怖れと喜びに包まれ、顕示されたご聖体の前で大きな喜びを得たのでした。そして、同じ志をもつ仲間7人が集まり、1949年12月8日聖母マリアの無原罪の宿りの祝日にけがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会が産声をあげたのです。

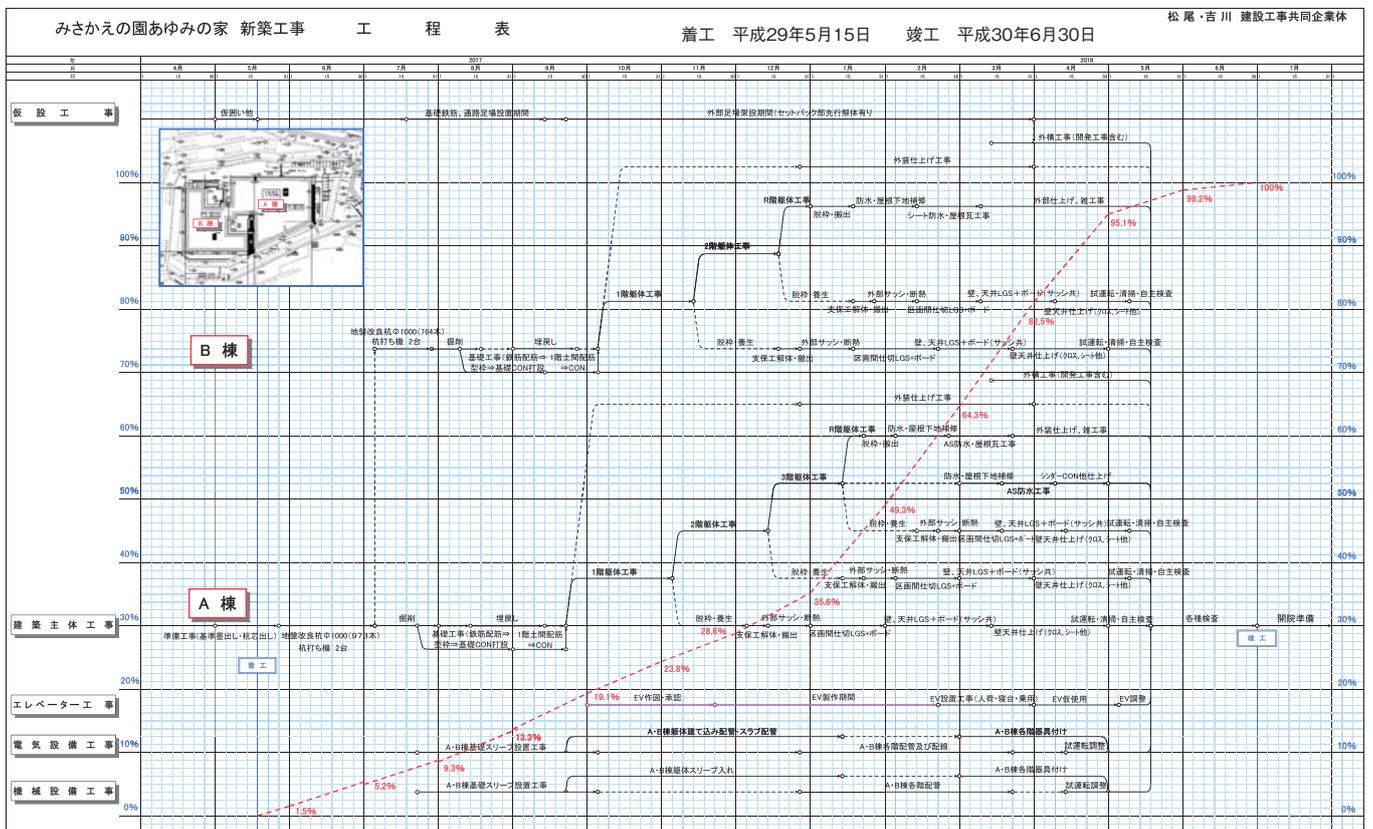
その後は障がいをもった子どもたち、さらに医療が必要な障がいのある子どもたちと、誰もが踏み入れることを躊躇するような最も困っている子どもたちのために自分の人生の全てを捧げてこられた。まさに聖母マリア様がキリストに捧げられたように。俗世間に生きる自分にとって、初めて聖母マリア様の魅力を中山和子様により学ぶことが出来ました。すばらしい奉仕と愛に満ちた人生から「祈りと感謝」という感動を頂きました。長い間、聖家族会の理事長としてみさかえの園を導いて頂き、ありがとうございました。これから末永く、見守ってください。

愛と奉仕の実践

施設長 平松公三郎

自分の身に起こることはすべて偶然ではなく意味があつて起こることだといわれていますが、私もあゆみの家で働く機会を得てからいろいろな縁のつながりを感じるがあります。中山先生の名誉理事長ご就任のお祝いの席で、私の亡き叔父の中部長次郎が元後援会会長としてみさかえの園に長く関わったことが話題にあがったのもそのひとつでした。思わずつながりの深さを感じ、縁をいただいたお礼も兼ねて中山名誉理事長先生を囲む茶話会を開かせていただきました。中山先生、浦田シスターと私の叔母（元後援会会長夫人）とで、みさかえの園の草創期のことなど懐かしい話題でのお話がはずみ楽しい午後の一日となりました。

中山先生からは、所見もないのに痛みを訴えてきた原爆孤児に、愛をこめての手あての診察にて触れ合いの求めに答えられた話。浦田シスターからは、皇太子さま・皇太子妃さま（現在の天皇・皇后）に献上した園生の作ったスリッパが大事に保管されていて、みさかえの園への御幸の際にお持ちになり使用されたことなど皇室の障がい者へのお心配りに頭がさがった話。叔母からは、園生の方々が久しぶりの来園にもかかわらず叔母のことを忘れずに覚えていて声掛けしてくれて感動した話。みさかえの園の歩みの中での慈愛あふれる愛と奉仕の体験談を間近に聞かせていただきました。そして、この縁深いみさかえの園で、私も次世代の者として愛と奉仕の実践継続の一助となるべくこれからも努めてまいりたいと実感した一日でもありました。



新年度を迎えて

あゆみの家 施設長 平松 公三郎



あゆみの家は1973（昭和48）

年の開設からこの春で44年となります。皆様ご承知のように、今、開設以来の大きな展開点を迎えようとしています。2018（平成30）年初夏には大村の地へ新築移転します。新天地では、入所機能とともに在宅支援ができる施設機能が求められています。長崎の県央に位置し、県北、離島も含めた基幹施設として発展が期待されています。

昨年度は、発達外来の開始、ショートステイ事業の再開、オーダーリング開始などの事業展開とともに組織体制の見直し、支援課配置などの内部調整にも力を入れてきました。皆様のご協力のもと、それぞれに展開ができ変革ができ、進む方向を皆様と同じくして進めていることを実感しています。有難いことです。建築現場をみますと、造成工事がほぼ終わ

り、いよいよ建物工事への着手となります。現在園内では、内部設計の詰めが各部署でおこなわれておりHAPチームの介入で文化的な香りも注入できそうです。またリフトの導入チームも本格的に始動し、リフトの価格交渉も終わり設置の準備段階に入っています。

新年度を迎え、さらにハードの面、ソフトの面で、迅速かつ詳細に新築移転のための準備をつめていくこととなります。「利用者の方にとってより良い入所環境の提供を、在宅からの利用者の方には質の高いサービスが提供できるように」との思いを常に持ちながら、これからの諸事業に取り組んでまいりたいと思います。

4月からは早速、(1)病棟運営改変の第一弾（受持ち制の拡大、福祉職と看護職の勤務表作成分担、福祉主任とサービスマニエール管理責任者の分離）、(2)祝祭日の休日化を始めました。今までの体制と異なり戸惑うこともあるかと思いますが、平成30年の大きな展開に向けての準備として理解いただき、あゆみの家の5つの運営方針に従って気持ちをひとつにし各人

が自らの役割を最大限に発揮し、変革の波をみんなので乗り超えていきたいと思えます。

皆様には、あゆみの家の発展のために引き続きご尽力いただくことをお願い致します。



第二めぐみの家

マリア様に賛美

施設長 齋木 初江

マリア様の月に修道会本部修道院で、あるシスターと話していた時、マリア様の賛美の話題になった。あるシスターは幼稚園でお仕事をされていて、今度行うマリア様の賛美の内容を話してくれた。

第二めぐみの家の利用者様は折り紙で鶴を折るのが得意なので、いつも賛美の時は花の代わりに鶴をまいて、そのシスターに話した。すると、「その鶴、ある？平和を願って、うちでもそれをまきたい」と言ってきた。エッ？と思いつながら（たしか、あそこにあつたよね…）。

それで第二めぐみの家にいるシスターに連絡をとって準備してもらった。喜んで持ち帰ったが、意外なところであの鶴たちが役に立つといったら失礼かもしれないが、活躍してくれるなんて思ってもいなかったで、とてもうれしかった。

マリア様の月に小さな子どもたちが平和を願って利用者様が折った鶴をまいて祈る姿を自分なりに想像した。後日、様子をさいたいところ、保護者様も参加しての盛大な賛美が行われたそうだ。（愛誌234号参照）
世界が真の平和で満ちあふれるよう、今後も利用者様と一緒に祈っていききたい。

みさかえの園サテライトセンター

笑顔があふれる

センターを目指して

相談支援専門員 田中揚子

「ハッピー」「ラッキー」「ウイスキー」「ミッキー」と書かれた張り紙が事務所入り口にあります。口角

をあげ笑顔でみなさんを迎えられるよう、また、みなさんのもとへと支援に行けるようにという合言葉です。サテライトセンターは、平成27年に開所してまもなく2年になります。昨年、一周年を記念し、10月に地域

の方をお招きし「みさかえの園サテライトセンター秋の感謝祭」を開催しました。

1階のホールでは、高来町泉地区のいきいきサロンの方や就労継続支援B型かたつむりの家と共にストラックアウトやパターゴルフ、宝つりがあり豪華な景品を目指して楽しまれました。「デイスペースあん」オリジナルのたこ焼き風コロコロ焼きやむつみ農園で心をこめて作られた焼き芋、「かたつむりの家」オリジナルのかるかんまんじゅうなど美味しいにおいも漂っていました。2階では、サテライトセンター自慢の地域交流室でゆつくり過ごしてもらえるようカフェコーナーを準備し、オカリナ・ギター演奏「マルメロ」による演奏会があり2つの音色で会場は、うっとりされていました。



また、有志ボランティアによる「マツサージコーナー」では行列ができ、短い時間ですが身も心もスッキリされたのではないかと思います。参加者からは、「近くにこんな施設があるなんて知らなかった」「楽しかった」との声が聞かれました。そして、1月に行なわれた「高来



のぞみの家

神様の花園

施設長 小峰 静江

のぞみの家の庭には、四季を通じていろいろな花が、施設を訪れる人の目を楽しませてくれます。冬から春にかけて、椿、金木犀、ビオラ、しゃくなげ、藤、夏から、秋にかけてメキシカン・セージの紫色がなごませてくれます。去年の秋には、パンジー、ビオラ、クリサンセマム、キンセンカ、金魚草、などしこをワックススペースの利用者さんが植えてくれました。冬の寒々しい中、キンセンカやパンジーが彩りよく咲き、通るたびに心がなごみました。が、その中で金魚草がなかなか花を開いてくれませんでした。つぼみは沢山つけているのですが、花が開かず通るたびに声かけていました。3月末頃から花が咲きだしまして5月には満開になり、色とりどりに咲き競っています。私達も一人ひとり、個性があつて早咲きの人、遅咲きの人、人がいてそれぞれに神様のお望みをはたす時があると思います。のぞみの家の利用者さん達も同じです。若い時、自分出来ることを一生懸命はたし、きれいな花を咲かせました。今、少し年をとり、静かな時を過ごしている方、今も元気に手芸に励み、頑張っている方と様々です。皆、与えられた力で神様のお望みを果たしているのだと思います。その中に神様の祝福があると信じています。

町駅伝大会」にはデイススペースあんの職員が出席し、ネタ盛りだくさんの内容でしつかりデイあんをアピールできるような素晴らしい結果を残してくれました！また来年も出よう

と意気込みはバッチリです！今回の感謝祭や駅伝大会で「地域交流」の第一歩を踏み出せたのではないかと思います。これからも在宅支援の拠点として私たち自身、地域

の行事や活動へと出向いたりサテライトセンターに来てもらえるような取り組みを積極的に考えていきたいと思えます。広く地域に開放している多目的室や地域交流室も今までに太極拳教室や社交ダンス教室、介護福祉士の研修会等に利用されており、少しずつ利用が広がってきています。他にも施設に面会に来られた御家族が利用者さんたちとゆつくりの休

また、昨年は、熊本地震や台風、大雨等の自然災害が多くありました。その際には、サテライトセンターに避難し一夜を過ごしたりと避難所としても活用されています。今回、みさかえの園後援会様より「発電機」と「貯水タンク」、「非常用排便収納袋」を頂きました。贈呈式では、デイススペースあんより演奏のプレゼントでお礼をしました。ありがとうございました。

地域交流室へと続く壁には、手作りのフォトフレームで地域活動の様子を紹介しています。アットホームな空間がみなさんをお待ちしています。たくさん、遊びに来てくださいね！！



ワークスペースあん

みなさん、**農福連携**の言葉を聞いたことがありますか？

「ニッポン一億総活躍プラン」（平成28年6月2日閣議決定）において農業と福祉の連携の推進が位置づけられるなど、障がい者の就労訓練や雇用の場として農業分野が期待されています。農業分野での障がい者の就労を支援し、障がい者の工賃向上、農業分野への職域拡大及び農業の労力不足解消につなげることを目的としています。

わたしたちの仕事は、農作業が中心です（詳細は第18号掲載）特に育苗（いくびょう）の野菜苗・玉葱苗・花苗においては、事業収入の約6割を占めています。その中で野菜苗についてご紹介します。

質問① 種類は、どれくらいあるの？

茄子（6種類）	トマト（4種類）	ピーマン（5種類）	胡瓜（2種類）
南瓜（4種類）	オクラ（2種類）	アスパラガス	トウモロコシ
メロン	キャベツ（2種類）	計 16,990本	（平成29年度出荷数）

質問② 請負業務先は？

諫早市内に本社がある八江農芸株式会社さまです。

質問③ どのように育てているの？

種を蒔く



小さい種を1マスずつ蒔くには手先の器用さが必要とされます



発芽



植付



土の量や入れ具合、ケースに入れるポットの数など難しく、植付作業にとっても影響します利用者さんに人気が高い作業です



ポットの土入れ



出荷



トラックへの積み込み作業
体力、集中力、最後の良否判断などが必要とされます
納品作業は楽しいなあ～
助手席で見る表情は、自信に満ちています

作業工程を一人一人の得意分野（強み）に分けチームで支え合いながら野菜苗納品福祉事業者として誇りを持ってさらなる飛躍を目指したいと思います。

「立派な苗ですね～ よか野菜の出来た～」と言ってもらった時の喜びは…嬉しいの一言に尽きます

（サービス管理責任者 門脇直子）

福祉人材の育成の重要性

福祉分野で働く人の一層の処遇改善を行い、有能で熱意のある人材が、今まで以上に福祉職場を目指すようになるような環境整備を行うことは、私たち社会福祉法人にとって重要な課題です。私たちは、日本の将来を見越した最適な社会保障制度の構築の為に自ら人材確保・育成に努力するとともに、処遇改善やキャリアパスの整備などについて現場や地域と一体となって工夫し、併せて、関連する政策提案等を積極的に行っていく必要があります。

(アクションプラン2020年より掲載)

人財になる為の7つの条件

Q さて、あなたは、いくつクリアしていますか？

- ① 明るく、元気なあいさつができる。
- ② 言われなくても、自分で考え、行動できる。
- ③ 人がイヤがる事でも、進んで取り組める。
- ④ 常に「どうしたらできるか？」を考える。
- ⑤ 仕事の納期を、きちんと守ることができる。
- ⑥ ミスやクレーム等の報告を、すぐにできる。
- ⑦ 人が見ていなくても、手を抜かずに仕事ができる。

苦情解決委員会報告

意見・要望について (平成28年4月～平成29年3月)

法人全体

種 類	件 数
①ケアの内容に関わる事項	3
②個人のニーズ(嗜好・選択)にかかわる事項	2
③環境・設備に関わる事項	2
④事務に関わる事項	2
⑤スタッフの接遇に関わる事項	5
⑥その他	6
計	20

施設別件数

	第二めぐみ	むつみ	児童発達	わくわく	のぞみ	あゆみ	りん	デイあん	スマイル	ひびき	ワークあん	計
①	1					2						3
②					2							2
③					1	1						2
④		2										2
⑤		1				2	1			1		5
⑥	2	2			1		1					6
計	3	5	0	0	4	5	2	0	0	1	0	20

※その他の内訳：
 ・伝達に関すること 1 ・衣類に関すること 1 ・服薬に関すること 1
 ・利用の枠について 1 ・診療～処方～請求の流れ 1 ・支援内容について 1

社会福祉法人聖家族会 平成28年度 決算報告

事業活動計算書				貸借対照表				
単位：千円				単位：千円				
科 目	当年度決算	前年度決算	増 減	勘定科目	平成28年度末	平成27年度末	増 減	
サービス活動増減の部				資 産	流動資産	2,161,557	2,141,306	20,251
サービス活動収益	3,784,045	3,776,050	7,995		現預金資産	1,511,655	1,495,164	16,491
サービス活動費用	3,572,113	3,474,805	116,090		その他	649,902	646,142	3,760
人件費	2,796,171	2,686,721	109,450		固定資産	9,930,563	9,648,975	281,588
事業費	398,720	396,514	2,206		基本財産	2,992,182	3,075,635	-83,453
事務費	182,063	176,146	5,917		その他の固定資産	6,938,381	6,573,341	365,040
就労支援事業費用	5,923	6,320	△397		合 計	12,092,120	11,790,282	301,839
授産事業費用					流動負債	263,375	233,458	29,917
利用者負担軽減額	488		488		固定負債	73,190	9,658	63,532
減価償却費	203,765	208,310	△4,545		負債計①	336,565	243,116	93,449
△国庫補助金等特別積立金取崩額	△15,017	△18,781	△3,764	基本金	690,604	670,604	20,000	
徴収不能額		794	△794	国庫補助等特別積立金	168,913	181,993	-13,080	
徴収不能引当金繰入				その他の積立金	5,155,026	6,019,736	-864,710	
その他の費用				次期繰越活動収支差額	5,741,012	4,674,832	1,066,180	
サービス活動増減差額	211,931	320,025	△108,094	(うち当期分)	201,470	360,731	-159,261	
サービス活動外増減の部				純資産計②	11,755,555	11,547,165	208,390	
サービス活動外収益	30,505	46,340	△15,835	合 計 (①+②)	12,092,120	11,790,281	301,839	
サービス活動外費用	774	8,209	△7,435					
サービス活動外増減差額	29,732	38,131	△8,399					
経常増減差額(7)=(3)+(6)	241,663	358,157	△116,494					
特別増減の部								
特別収益	30,449	2,993	27,456					
特別費用	70,642	418	70,224					
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△40,194	2,575	△42,769					
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	201,469	360,732	△159,263					
繰越活動増減差額の部								
前期繰越活動増減差額	4,674,832	4,509,101	165,731					
当期末繰越活動増減差額	4,876,302	4,869,832	6,470					
基本金取崩額								
積立金取崩額	875,000	120,000	755,000					
積立金積立額	10,290	315,000	△304,710					
次期繰越活動増減差額	5,741,012	4,674,832	1,066,180					

☆基本金の増：施設整備寄附金を1号基本金に組入
 ☆その他の積立金の減：あゆみの家新築工事費の一部支払等
 ☆当期繰越額の減：159,261千円



各施設の住所

ホームページ

<http://www.misakae.or.jp/>

○社会福祉法人 聖家族会 法人事務局

☎859-0167 ☎0957-34-4520 Fax 0957-34-4521
 長崎県諫早市小長井町遠竹2747-6

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○みさかえの園第二めぐみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-10
☎0957-34-3112 Fax 34-2044 ○みさかえの園のぞみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-1
☎0957-34-3114 Fax 34-3612 ○諫早こどもデイサービスわくわく広場
諫早市長田町1470
☎0957-20-4120 Fax 20-4121 | <ul style="list-style-type: none"> ○みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家 ○みさかえの園児童発達支援センター
長崎県諫早市小長井町牧570-1
☎0957-34-3113 Fax 34-3526 ○みさかえの園あゆみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-3
☎0957-34-3115 Fax 34-3045 ○ワークスペースあん就労継続支援B型事業所
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-1
☎・Fax 0957-34-2371 |
|--|--|
-
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○みさかえの園サテライトセンター ☎859-0121 諫早市高来町泉196-1
☎0957-32-2535 Fax 32-2536 ・相談支援事業所スマイルサポート ・居宅介護事業所みさかえヘルパーステーションひびき | <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業所デイスペースあん ・共同生活援助事業所グループホームりん |
|--|---|

編集後記

今年も平和旬間がやってまいります。今年で72年を迎えます。特に平和について考え、語り合い、祈りをもって過ごしたいものです。
 社会福祉法の改正に沿って、社会福祉法人として「公益性」を発揮し、「困っている人を見つけて手を差し伸べる支援」が必要で、その為には「連携」や「ネットワーク化」は不可欠のこと。その為にはより良い法人として職員皆様のより一層の協力一致体制を期待いたしております。
 これからも暑い毎日が続くことと思います。ご健康に気を付けられ利用者様へのサービスにもお励みください。
《法人事務局一同》